

放送大学秋田学習センターが、10月に開設30周年を迎える。テレビやインターネット、ラジオを活用してどこでも学習が可能で、大学院を含めこれまで1万4千人を超える県民を受け入れてきた。近年は学生数が減少傾向にあるが、公開講座の開催などを通じて周知に力を入れる。6月10日には10月入学の募集も始まる。担当者は「好きな時間に好きな場所で自分のペースで学べるのが特徴。それぞれの目標に合わせて利用してほしい」と呼びかけている。

(遠山龍生)

秋田学習センターは本部を秋田大手形キャンパス内に置く。前身の秋田地域学習センターとして1996年に開設。2001年に大学院が設置され、26年3月末までに大

放送大学

放送大学秋田学習センターで意欲を持って学び続ける人もいる。今年3月に卒業した秋田市市内の腰山裕子さん(68)は、教養学部全6コースを修了した学生に与えられる「名誉学生」を授与された。センターでは6人目。16年かけて修めたとい、「やり遂げた満足感と充実感でいっぱい」と喜ぶ。

教養学部は「生活と福祉」「心理と教育」など全6コース。名誉学生は、2007年の制度創設以来、腰山さんを含め全国で1204人(26年3月

思い思いのペース 1万4千人超学ぶ

秋田学習センター 10月 開設30周年

学と大学院計約9000人の学生が卒業した。秋田学習センターによると、科目履修生なども含め計1万4670人が学んできた。

26年1学期現在、10〜90代の498人が在籍。最も多いのは20代で、40代、50代と続く。会社員や公務員のほか、大学生による聴講も多い。

秋田大の教授ら計7人が所属。週末には対面での授業も開講し、直接教員の指導を受けられることもできる。県内の遺跡や美術館などを巡る研修旅行も年に1回行い、学生同士の交流機会も設けている。

在籍者数は02年2学期にはピークの949人となったが、その後減少傾向が続き、25年1学期には500人を割り込んだ。担当者は人口減少や、定年延長の影響で生涯学習を始める年齢が遅くなっている可能性もあるとみる。

こうした状況を踏まえ、秋

放送大学

放送大学学園(本部・千葉市)が運営する通信制大学。法律に基づき、運営には国の予算が投入されている。教養学部を設置し、学

田学習センターでは学生確保に向けた周知に力を入れる。県内の図書館や学習施設、病院などへパンフレットを配布するほか、公開講座も開催。担当者は「通信制の大学だが、対面での学習相談や授業もあり、設備も充実している。学習成果の積み重ねで成長を実感できるので、自分のペースで学びを深めてほしい」と話している。

入学は4、10月の2回。10月入学の募集は6月10日〜9月9日。希望者は、センターなどで出願書類を入手し放送大学本部へ郵送するか、大学ホームページからインターネット出願する。

士の学位取得を目指す全科履修生(在学4〜10年)、興味のある科目を選ぶ選科履修生(同1年)と科目履修生(同半年)など目標に応じて履修方法を選択できる。

16年かけ全6コース修了「充実感でいっぱい」

現在)が授与された。秋田学習センターではこれまで、腰山さんを含む60〜80代の6人が受けた。

腰山さんは市内の郵便局を退職後、自分のために時間を使いたいと09年10月に入学。興味のあつた心理学を学ぼうと「心理と教育」コースを専攻。4年かけて卒業した。その後も関心がある分野の講義を受けていくうち、残り5コースをそれぞれ2〜3年かけて修了。最後となる「自然と

環境」コースを昨年度で終えた。履修単位は16年間で計228単位に上った。

「勉強が趣味の一つになり、何かを調べるのが楽しかった。学ぶことに年齢は関係なく、終わりはなく」と語る。今後については「孫の勉強をサポートしたい。自分の経験や勉強方法を他の学生に伝える手助けもできたらうれしい」と話した。



6コースの卒業証書を前に「名誉学生」の表彰状を手にする腰山さん